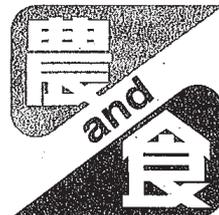


優良賞

優良賞に齊藤さん、伊藤さん

毎日農業記録賞



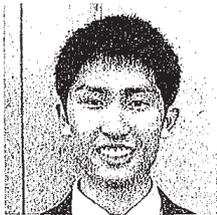
第48回毎日農業記録賞(一般部門・高校生部門)の審査が行われ、県内の応募者から2人が優良賞、6人が千葉支局長賞に選ばれた。一般部門の受賞者は全員が県立農業大学の学生。高校生部門は学校で農業や環境、食品について学ぶ生徒が受賞した。それぞれの受賞者に、応募作品に込めた思いを聞いた。

【鮎川耕史、金沢衛】

千葉黎明高3年・伊藤優希さん(18)

「私の三年間と微生物」

高校生部門



微生物による発酵を利用した落花生の有機栽培に取り組んだ。はじめの栽培では発芽仕上げるの学年の3年で果をつづった。

がうまくいかず、畑をカラスに荒らされるというハプニングにも見舞われた。種に唐辛子の粉をまぶす対策を農家に教わり、被害を軽減。香ばしく味の濃い落花生が収穫できた。2年生の時は畑が台風の影響を受け、ほとんどの落花生が傷んでしまう被害を受けた。仕上げの学年の3年で果をつづった。

千葉支局長賞

県立農業大学校研究科1年「九十九里町と我が家と私」
子安亮輔さん(20)



地元・九十九里町は少子高齢化が進み、耕作放棄地が増える懸念もある。地域の農業を引っ張っていくため、専業農家になりたい。そんな志望を作品につづった。「物心ついたころからトラクターを操作する叔父の膝の上に乗ったり、祖母とともに家庭菜園で野菜を育てたりしていた」。農業の担い手になるための研究課題は「水稻耕作の規模拡大につなげるための省力化」など幅広い。地域の農家との交流も深めたいという。

※子安くんは、平成29年度に本校を卒業